様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年５月２０日現在

研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2006～2008
課題番号：18500579
研究課題名（和文）　サスティナブルな視点を導入した家庭科カリキュラム構築

研究課題名（英文）　Curriculum Development for Home Economics from a viewpoint of Sustainability

研究代表者
福原　美江（FUKUHARA　YOSHIE ）
宮崎大学　教授
50094082

研究成果の概要：
家庭科教育における「サスティナブルな視点」（＝持続可能な生活・暮らし方の視点）とは何かを明らかにし，高等学校における家庭科の教科書を対象に，サスティナブルな視点の記述の有無とその内容を分析した。その結果，学習指導要領の改訂を重ねるに伴って，食生活，衣生活，住生活のいずれもサスティナブルな視点が豊かな内容を含む教科書へと変遷していることが明らかとなった。その豊かな学習内容をもった教科書を使いこなすことのできる教員の養成や研修，及び誰でもが使える実践づくりが課題であると筆者らは考えている。

交付額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2006 年度 | 1,600,000 | 0 | 1,600,000 |
| 2007 年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1430,000 |
| 2008 年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 3,500,000 | 590,000 | 4,070,000 |

研究分野：総合領域・生活科学・生活科学一般
科研費の分科・細目：家政・家政教育
キーワード：持続可能な社会の形成・サスティナブルな視点・生活課題の社会的解決
高校家庭科教科書分析

## １．研究開始当初の背景

日本家庭科教育学会は，2002（平成 14）年度に特別委員会を設置して「循環型・共同参画型社会をめざすライフスタイルのあり方」に取り組み，このようなライフスタイルの形成に家庭科教育から貢献できる可能性を提示した。

また，国連は 2005 年から 2014 年までの 10 年間を「国連・持続可能な開発のための教育の 10 年」（Education for Sustainable Development，平成 14 年 12 月に国連総会で採択。以下，「ＥＳＤ」と略称）と位置づけている。ＥＳＤの範囲には，従来から家庭科教育の範疇とされてきた環境，福祉，ジェンダー，子どもの人権教育などが含まれている。家庭科教育では，①循環型・共同参画型社会の形成，②環境教育の進展と新しい生活課題の解決，③持続可能な社会づくりと生活者の育成，などについて寄与できるのではないかと考えてこの研究テーマに取り組むことにした。

## ２．研究の目的

本研究は，以上のような課題意識から，ま

ず，①家庭科教育における「サスティナブルな視点」（＝持続可能な生活・暮らし方の視点）とは何かを明らかにする。次に②高等学校における家庭科の教科書を対象に，サスティナブルな視点の記述の有無とその内容を分析する。

## ３．研究の方法

研究方法は，主に検定教科書を対象とした文献調査研究であるが，研究仮説に基づく授業研究を実施し，その分析結果からカリキュラム試案を構想する。

教科書における記述内容の分析手順及び分析方法は以下の通りである。

### （１）分析対象の教科書

分析対象とした高校家庭科の教科書を表１に示した。

研究開始の 2007 年度用の高校家庭科教科書「家庭総合」は，1999 年告示の高等学校学習指導要領に準拠している。1999 年版学習指導要領が，新制高等学校発足時に発行された学習指導要領から数えて７次目に当たることから，表１－１の教科書を「第７次」と呼ぶ。さらに，本研究では，経年的な動向を明らかにするために，表１－２に示した第６次（1989 年版学習指導要領準拠）の「家庭一般」９冊，表１－３に示した第５次（1978 年版学習指導要領準拠）の「家庭一般」６冊も分析対象とした。なお，第７次で「家庭総合」を分析対象にした理由は，高等学校において必修であった「家庭一般」の内容を継承した科目だからである。また，本研究における分析は，「食生活」「衣生活」「住生活」の研記述内容について実施した。「家族・保育」についての分析は，2009 年度以降に実施する予定である。

表1－1　第7次教科書

| 教番 | 出版社 | 教科書名 | 検定年月 |
|---|---|---|---|
| 007 | 一橋出版 | 家庭総合 | 2002. 2 |
| 031 | 東京書籍 | 家庭総合 | 2006. 3 |
| 032 | 教育図書 | 新家庭総合 | 2006. 3 |
| 033 | 教育図書 | 家庭総合 | 2006. 3 |
| 034 | 実教出版 | 新家庭総合 | 2006. 3 |
| 035 | 実教出版 | 新家庭総合 21 | 2006. 3 |
| 036 | 開隆堂 | 家庭総合 | 2006. 3 |
| 037 | 大修館書店 | 新家庭総合 | 2006. 3 |
| 038 | 大修館書店 | 家庭総合 | 2006. 3 |
| 039 | 第一学習社 | 家庭総合 | 2006. 3 |

表1－2　第6次教科書

| 教番 | 出版社 | 検定年月 |
|---|---|---|
| 501 | 東京書籍 | 1993. 1 |
| 503 | 中教出版 | 1993. 1 |
| 505 | 教育図書 | 1993. 1 |
| 508 | 実教出版 | 1993. 1 |
| 509 | 実教出版 | 1993. 1 |
| 517 | 一橋出版 | 1993. 1 |
| 518 | 一橋出版 | 1993. 1 |

表1-3　第5次教科書

| 教番 | 出版社 | 検定年月 |
|---|---|---|
| 001 | 東京書籍 | 1981. 3 |
| 002 | 中教出版 | 1981. 3 |
| 005 | 教育図書 | 1981. 1 |
| 008 | 実教出版 | 1981. 3 |
| 011 | 一橋出版 | 1981. 3 |
| 012 | 学習研究社 | 1981. 3 |

### （２）分析視点

本研究では，次のような「生活者や暮らし方」を「家庭科教育におけるサスティナブルな視点」として把握した。

○人間と自然・社会との生態系に配慮した生活者・暮らし方
○生活主体として自立した生活者・暮らし方
○生活へのこだわり（生活観・生活思想・生活価値をもつ生活者・暮らし方
○現代，あるいは地域の生活課題や生活文化を大切にする生活観をもった生活者・暮らし方
○他者との共生と連帯を大切にする生活観をもった生活者・暮らし方
○持続不可能な生活・暮らし方に対して批判的視点をもち，その生活や暮らし方を再検討しようとする生活者・暮らし方

これらを踏まえ，教科書の記述内容の分析視点として，以下の４点を設定した。

表2　分析の視点

| | |
|---|---|
| 視点1 | サスティナブルな暮らしを妨げている実態について記述があるか。（生活課題の自覚） |
| 視点2 | 個人レベルのサスティナブルな暮らし方についての記述があるか。（個人的解決） |
| 視点3 | サスティナブルな暮らしの実現をめざす社会的な動きについての記述があるか。（社会的解決） |
| 視点4 | サスティナブルな社会の実現をめざす生活主体者としての行動を促す記述があるか。（主体的参加） |

### （３）分析方法

まず，第７次教科書 10 冊を対象に，表２の視点が見出される，記述，図表及び写真などを取り出し，それぞれに記述内容を表現するキーワードを付した。次に，視点やキーワード間にずれがないか検討し，それらのキーワードをいくつかの項目に類型化し，データベースを作成した。このデーターベースを参考にしながら，第６次と第５次の教科書を分析し，それぞれデーターベースを作成し，各領域ごとに記述内容に関する検討を行った。

## ４．研究成果

### （１）食生活領域

第５次～第７次の教科書 23 冊を分析した結果，41 個のキーワードの記述が見出された。表３に，これらのキーワードを，「文化」「生産・流通」「調理」「食行為」「廃棄」の５つの項目で整理した結果を示す。キーワードとしては，「生産・流通」が多く，「文化」が少なかった。

表４に，改訂次別のキーワード総数と１冊あたりのキーワードの平均と標準偏差を示す。第５次より第６次，第６次より第７次へと急激にサスティナブルな視点の見いだされる記述が増加していた。

表５に，改訂次別のキーワード総数を，視点別に示す。第５次，第６次，第７次のいずれでも視点１が多く，視点４が少なかった。個人的解決の視点２と社会的解決の視点３は，第５次～第７次へと急激に増加していた。

なお，表３のキーワードの中で，第５～第７次のいずれにも見出されたキーワードは，「食物汚染」「食の生産・流通」「調理の工夫」「食事行為」「容器包装廃棄物」の５個であった。

表3　視点が見出された記述のキーワード

| 項目 | キーワード |
|---|---|
| 文化 | 食文化，郷土料理 |
| 生産と流通 | トレーサビリティ，フェアトレード，地産地消，スローフード，産地直送，持続農業法，資源と食生活，消費者運動，遺伝子組み換え食品，旬，フードマイレージ，南北問題，穀物飼料，環境ホルモン，食物汚染，食の生産・流通，農薬・ポストハーベスト，便利さ志向，食品添加物，被膜剤 |
| 調理 | ホームフリージング，エコクッキングの例，調理の工夫，献立作成の工夫，食品の選択，無洗米，冷蔵庫の使用，ラップなどの使用例 |
| 食行為 | 食生活指針，食生活診断，食育の取り組み，食事行為，ジェンダー |
| 廃棄 | バイオマス，廃油の処理，コンポスト化，容器包装廃棄物，食品ロス，食器・器具等の買いすぎ |

表4　視点が見出されたキーワード数

| 教科書 | 記述総数 | 平均 |
|---|---|---|
| 第7次 | 129 | 12.9 |
| 第6次 | 44 | 6.3 |
| 第5次 | 10 | 1.7 |

表5　視点別のキーワード数

| 教科書 | 視点 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 第7次 | 46 | 48 | 31 | 4 |
| 第6次 | 20 | 14 | 8 | 2 |
| 第5次 | 5 | 3 | 2 | 0 |

### （２）衣生活領域

表６に視点が見出された記述のキーワードを示す。衣生活領域では，項目を「人間と衣服」「被服材料の性能と特徴」「被服の構成と製作』」「被服整理と衣生活の管理」の４つとした。キーワードとしては，「被服整理と衣生活の管理」が多く，「被服の構成と製作」が少なかった。

表７に，改訂次別のキーワード総数と１冊あたりの平均を示す。第５次より第６次，第６次より第７次へと急激にサスティナブルな視点の見いだされる記述が増加していた。

表８に，改訂次別のキーワード総数を，視点別に示す。第５次～第７次のいずれでも，視点２が多く，視点４は皆無であった。社会的解決の視点３は，第５次～第７次へと急激に増加していた。

図１に，項目別のキーワード数を改訂次別に示す。図１からキーワードはすべての項目で視点が増えているのではなく，「被服の構成と製作」では視点が減少したこと，「被服材料の性能と特徴」では第７次になって記述が見出されたことが明らかである。

表6　視点が見出された記述のキーワード

| 項　目 | キーワード |
|---|---|
| 人間と被服 | 身体保護，被服気候，被服の機能と着装，民族服，流行，国際化，昔の工夫，大量消費，ジェンダー，ユニバーサルデザイン，フェアトレード |
| 被服材料の性能と特徴 | 紫外線，新素材，生分解性繊維，エコメイトマーク，オーガニックコットン |
| 被服の構成と製作 | 裁断，製作 |
| 被服整理と衣生活の管理 | 衣生活経営，死蔵衣服，廃棄衣料，不要衣料の行方，省資源・省エネルギー，過度の清潔志向，環境負荷の少ない衣生活，ケミカルリサイクル，仕上剤，節水，洗剤の環境負荷，洗濯の仕方，手入れ，ドライクリーニング |

表7　視点が見出されたキーワード数

| 教科書 | 記述総数 | 平均 |
|---|---|---|
| 第7次 | 191 | 19.1 |
| 第6次 | 96 | 13.7 |
| 第5次 | 58 | 9.7 |

表8　視点別のキーワード数

| 教科書 | 視点 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 第7次 | 52 | 74 | 65 | 0 |
| 第6次 | 34 | 47 | 15 | 0 |
| 第5次 | 18 | 37 | 3 | 0 |

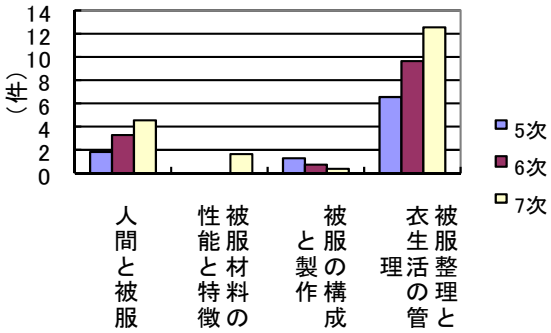


図１　項目別のキーワード数

### （３）住生活領域

表９に視点が見出された記述のキーワードを示す。住生活領域では，項目を「多様なライフスタイルへの対応・共生的な住まい方（以下：ライフスタイル）」「住宅管理長寿命化」「環境・地域の気候風土に対応した住宅に関する記述（以下：ハード）」「環境・地域の気候風土に対応した住まい方（以下：ソフト）」「ユニバーサル」「地域コミュニティ・まちづくり（以下：コミュニティ）」の６つとした。キーワードとしては，「ライフスタイル」が多く，「ユニバーサル」が少なかった。

表 10 に，改訂次別のキーワード総数と 1 冊あたりの平均を示す。食生活領域や衣生活領域と同様に，第５次より第６次，第６次より第７次へとサスティナブルな視点の見いだされる記述が増加していた。

図２に，改訂次別のキーワード総数を視点別に示す。視点１の記述は第５次から見出され，第６次に増加し第７次にはさらに増加していた。視点２の記述はそれほど大きく変化していないが，第６次に多くなっていた。視点３の記述は第５次では極めて少なかったが，第６次に急増し，第７次ではさらに急増していた。視点４の記述は第５次には見いだされなかったが，第７次では増加していた。

表9　視点が見出された記述のキーワード

| 項目 | キーワード |
|---|---|
| ライフスタイル | いろいろな家族，ライフスタイル，ライフステージ，家族の自立と共生，家族で家事にとりくむ，留守がちの家族の支援，住みこなし，住み替えシステム，コーポラティブ住宅，コレクティブ住宅，多様なライフスタイルに対応した社会づくり |
| 住宅管理長寿命化 | 住宅の長寿命化，耐用年限を伸ばすための住まい方長期的積み立て，集合住宅の管理（管理組合），民家再生 |
| ハード | 環境・地域の気候風土に対応した住宅，都市問題・公害等，環境共生住宅，屋上緑化，パッシブソーラー |
| ソフト | 環境・地域の気候風土に対応した住まい方，換気の必要性，過度の冷房を戒める |
| ユニバーサル | ユニバーサルな住まい，ユニバーサルなまち |
| コミュニティ | 地域コミュニティ，防犯，近隣へ配慮した住まい方，共同住宅の住まい方，地域コミュニティのルール，まちづくり |

表10　視点が見出されたキーワード数

| 教科書 | 記述総数 | 平均 |
|---|---|---|
| 第7次 | 308 | 30.8 |
| 第6次 | 211 | 23.4 |
| 第5次 | 46 | 7.7 |

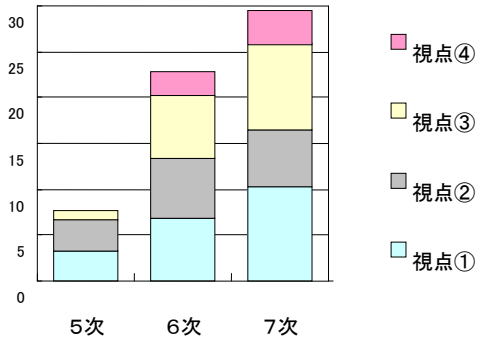


図2　次別・視点別（教科書）1冊あたりの記述件数

以上，食生活領域，衣生活領域，住生活領域について結果を述べた。

領域によって項目ごとに記述数の多寡はあるが，総じて第５次には記述数が少なく，第６次で記述数が増え，第７次ではさらに記述数が増えていた。「サスティナブルな暮らしを妨げている実態についての記述（生活課題の自覚）（視点１）」は，先人の英知に学び，現状の課題分析をする基礎であり，サスティナブル視点で，この記述が充実することは重要なことである。「個人レベルのサスティナブルな暮らし方についての記述（個人的解決）（視点２）」は，問題解決学習を重視する家庭科の教科書としては重要な課題であり，微増ではあるがサスティナブル視点での記述数が増えていることは評価できる。また，５次まではきわめて少なかった「サスティナブルな暮らしの実現をめざす社会的な動きについての記述（社会的解決）（視点３）」が，第６次・７次と増えていることは注目できる。さらに最も注目すべきは，６次から「サスティナブルな社会の実現をめざす生活主体者としての行動を促す記述（主体的参画）（視点４）」が出現しはじめ，第７次で記述数が増加していることである。

内容も説明だけではなく，これを解決していく視点がみられるようになり，とりわけ社会的解決の視点がふくらんでいるといえる。

学習指導要領をふまえながらも，それぞれの時代の新しい研究成果を盛り込み，居住施

策の動きを積極的に取り上げており，空間的な広がりと人の主体的なかかわりの深まりを読みとることができた。

こうした，それぞれの時代の新しい研究成果を盛り込み，サスティナブルナ社会の実現を目指す動きを積極的に取り上げた教科書を使いこなすために，教員の資質をどう高めるか，大きな課題である。定期的で，濃密な研修も必要であろうが，教員自らが地域再生の動きや取り組みに主体的にかかわっていくことが重要である。

## ５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　12 件）

① 吉永智子・久保加津代，地場産野菜と輸入野菜との食べ比べ演習が食の素材観の形成におよぼす影響，日本家庭科教育学誌 52-1，pp. 36-42，2009. 4，査読有

② 外山かおり・外山敦子・伊波富久美・福原美江、小学校家庭科における確かな学びの力を高める指導方法の検討－題材構成の再検討と学習形態の工夫－、宮崎大学教育文化学部附属教育実践総合センター研究紀要、第 17 号、pp. 53－65、2009. 3、査読無

③ 篠原久枝、宮崎県における子育て支援の一考察－多胎児支援と保育所における食育から（1）－、宮崎県における地域社会研究・研究報告書　第 5 号、pp. 59－63、2009. 3、査読無

④ 伊波富久美・福原美江、地域に根ざした家庭科授業の課題（第 1 報）－宮崎県の授業実践における学習者自身の生活課題の把握－、宮崎大学教育文化学部紀要教育科学、第 19 号、pp. 109－120、2008. 3、査読無

⑤ 福原美江・伊波富久美、地域に根ざした家庭科授業の課題（第２報）－九州・沖縄における被服実践の検討から－、宮崎大学教育文化学部紀要・教育科学、第 19 号、pp. 121－134、2008. 9、査読無

⑥ 國吉真哉・久保加津代・福原美江・宮瀬美津子・桑畑美沙子ほか、九州・沖縄の「生活課題」「生活文化」にかかわる家庭科の授業研究（第１報）－実践事例報告から見た現状と課題、日本家庭科教育学誌 51-2，pp. 96－103、2008、査読有

⑦ 伊波富久美・久保加津代・福原美江・宮瀬美津子・桑畑美沙子ほか、九州・沖縄の「生活課題」「生活文化」にかかわる家庭科の授業研究（第 2 報）、日本家庭科教育学，pp. 52-1，pp. 180－190、2008、査読有

⑧ 今村桂子，宮瀬美津子，桑畑美沙子（2008）主体的な生活者を育成する家庭科の授業開発－ウインナーソーセージを教材として－．熊本大学教育実践研究，第 26 号，41～50

⑨ 桑畑美沙子（2007）地域の食文化に視点をあてた授業の成果（第１報）－コンセプトマップで把握した中学生の食認識－. 日本家庭科教育学会誌　第 50 巻　第 1 号，3～12

⑩ 桑畑美沙子（2007）地域の食文化に視点をあてた授業の成果（第２報）－感想記述で把握した中学生の食認識－．日本家庭科教育学会誌　第 50 巻　第 1 号，13～21

⑪ 宮瀬美津子，松山佑美，三浦梨菜，桑畑美沙子（2007）熊本県の家庭科における「地域に根ざした」授業実践報告の現状と課題．熊本大学教育学部紀要，第 56 号，人文科学，131～136.

⑫ 宮瀬美津子，宮本由美子，桑畑美沙子（2007）環境保全を視野に入れた小学校家庭科の授業研究　食領域の場合，熊本大学教育実践研究，第 25 号，75～86

〔学会発表〕（計　13 件）

① 西澤悦子，宮瀬美津子、家庭科教育における環境学習の授業デザイン，日本教科教育学会　第 34 回全国大会，2008. 12. 6、宮崎観光ホテル

② 牛島めぐみ・宮瀬美津子，高等学校家庭科教科書にみる持続可能性－衣生活領域における検討－，日本家政学会九州支部会，2008. 10，鹿児島女子短期大学

③ 福原美江・宮本由美子・宮瀬美津子・桑畑美沙子，小学校家庭科教科書における記述内容の分析－持続可能な暮らしの視点を中心にして－，日本家政学会九州支部会，2008. 10，鹿児島女子短期大学

④ 八塚悠子，宮瀬美津子，望ましい食習慣の育成をめざす小学校家庭科のカリキュラム構築，日本家政学会九州支部会，2008. 10，鹿児島女子短期大学

⑤ 吉永智子・久保加津代，地場産野菜と輸入野菜との食べ比べ演習が食の素材観の形成におよぼす影響，日本家庭科教育学会九州地区会大 12 回研究発表会，2008. 7，琉球大学

⑥ 岡留菜穂子・久保加津代・吉原崇恵，KYT シートを活用した家庭科教材研究－乳幼児期の住まいの安全教育－」，日本家庭科教育学会九州地区会大 12 回研究発表会，2008. 7，琉球大学

⑦ 田原香南・久保加津代・吉原崇恵，KYT シートを活用した家庭科教材研究－高齢期の住まいの安全教育－，日本家庭科教育学会九州地区会大 12 回研究発表会，2008. 7，琉球大学

⑧ 外山かおり・伊波富久美・福原美江，「家庭科における確かな学びの力を高める家

庭科の授業－学習形態と言葉かけの工夫を中心に－，日本家庭科教育学会九州地区会大 12 回研究発表会，2008.7，琉球大学

⑨ 上田梨愛・宮瀬美津子・桑畑美沙子・福原美江，持続可能な社会の実現を目指す家庭科教育に関する研究，日本家庭科教育学会第 51 回大会，2008.6、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ

⑩ 篠原久枝，宮崎県における父親の育児参加を促進するための子育て支援に関する考察，日本家政学会第 60 回大会，2008.5，日本女子大学

⑪ 宮本由美子・桑畑美沙子・宮瀬美津子・福原美江，地域の環境保全を視野に入れた家庭科の授業研究　第２報－小学校における食領域の場合－，日本家政学会九州支部大会，2007.10，香蘭女子短期大学

⑫ 福原美江・桑畑美沙子・宮瀬美津子・久保加津代・篠原久枝・宮本由美子，サスティナブルな視点を導入した家庭科教育のカリキュラム構築－研究内容の概要と４つの視点について，日本家庭科教育学会九州地区会大 11 回研究発表会，2007.7，熊本大学・くすの木会館

⑬ 宮本由美子・桑畑美沙子・宮瀬美津子・福原美江，地域の環境保全を視野に入れた家庭科の授業研究　第１報－小学校における食領域の場合－，家庭科教育学会九州地区会大 11 回研究発表会，2007.7，熊本大学・くすの木会館

〔図書〕（計　０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０件）

○取得状況（計　０件）

〔その他〕

６．研究組織
(1)研究代表者
福原　美江（FUKUHARA　YOSHIE　）
宮崎大学　教授
50094082

(2)研究分担者
篠原　久枝（SHINOHARA　HISAE）
宮崎大学　准教授
40178885

桑畑　美沙子(KUWAHATA　MISAKO)
熊本大学　教授
80040070

宮瀬　美津子(MIYAMOTO　MITUKO)
熊本大学　准教授
10219785

久保　加津代(KUBO　KATSUYO)
大分大学　教授
50214987

(3)連携研究者
なし